

全国自問教育の会



EOSA Education of Self-Asking

発行日： 2011（平成23）年 8月 1日 No.1

発行者： 全国自問教育の会（会長：小島信由）

編集： 自問教育の会事務局（平田 斉藤 丸山 片岡）

事務局： 平田 治 ， 斉藤辰幸（長野県竜東中学校：2010年 2011年度担当）

E-mail： hirata@poplar.ocn.ne.jp

第20回 全国自問教育の会開催

会長 小島 信由

竹内隆夫先生が提唱されその考えに賛同する熱心な先生方が集うこの「自問教育の会」は、今年度第20回を数える記念すべき節目を迎えています。

今回、この機関誌が新刊されたことを機にその間にあった大きな転換点を2つお知らせします。

その一つは、この会を支え推進する私たちにとって最も悲しい出来事であったわけですが、去年の春、創始者の竹内隆夫先生が永遠の天国に旅立たれたことでもあります。ここ何年間かはお目にかかることも叶わなかったわけですが、優しい語り口で理論を展開しながらご教示いただいたのを今更ながらに思い出します。

今後は、ご教示いただいてきた我々が先生の御遺志を継いでいかななくてはならないと気持ちを新たにしているところです。

その二つめは、「全国自問教育実践交流会」と称して夏頃に実施していた「全国大会」と、授業公開を中心に行っていた「長野県自問教育の会」を合体し、「全国自問教育の会」として平成19年度より年に一度の開催になりました。

さて、本会の研究テーマについて、最近の動向を振り返ってみることにします。

近年来インターネットHP、自問清掃の書籍等によって「自問教育」を知り、新たに導入しようとする学校や個人で実践する先生が増えてきました。そこで、「どんな子どもたち」に「どのような姿」を願い自問清掃を導入し成果を上げようとしたのか、主に導入時にスポットを当てて考え合ってきました。

そして、去年くらいからは、継続的に実践する学校・個人の先生が多くなったことから、「児童生徒が自己磨きをより深めていこうとする姿」について、具体例を通して深め合ってきています。このように研究テーマは、導入時からさらに一歩先の児童生徒の内面化へとすすんできています。

今年度は、長野県の南に位置する飯田市竜東中学校を会場にお借りし、公開授業の参観や研究会、参加者の実践発表を通して学び合いたいと思います。この紙面をお借りして会場校にお礼を申し上げると共に、大勢の先生方にご参集いただき実り多い研究会になることをご期待申し上げ挨拶とさせていただきます。

平成23年度 第20回 自問教育の会のご案内

テーマ

「自分の心に問いながら自ら行動する生徒の育成」

主催

自問教育をすすめる会

期日

平成23年10月28日(金) 29日(土)

会場

長野県飯田市立竜東中学校

〒399-2221 長野県飯田市龍江9205

電話：0265-27-3169 Fax：0265-27-4729

e-mail ryutojh@ed.iidanet.jp

【宿泊】天竜峡温泉 龍峡亭

長野県飯田市龍江7454 電話：0265-27-2356

日程 [10月28日(金)]

受付 13:15～13:30

清掃参観 13:35～13:50

公開授業 14:00～14:50

開会行事 15:10～15:25

授業研究会 15:30～16:30

パネルディスカッション 16:40～17:20

情報交換会 18:30～(於：天竜峡温泉 龍峡亭)

[10月29日(土)]

受付 9:00～9:30

実践交流会Ⅰ 9:30～12:00

昼食 12:00～13:00

実践交流会Ⅱ 13:00～15:00

参加費

3,000円

申し込み及び実践発表

○申込先

自問教育をすすめる会事務局
長野県飯田市龍江9205 竜東中学校 斉藤辰幸
FAX 0265-27-4729
メール pgjyk304@ybb.ne.jp

○FAXかメールで9月23日(金)までに、以下を明記してお申し込み下さい。

- ①参加者氏名②住所③勤務先④メールアドレス⑤電話番号
- ⑥参加期日(1日目のみ参加・2日目のみ参加・両日参加)
- ⑦宿泊希望(あり・なし)
- ⑧情報交換会参加希望(あり・なし)

○実践発表を希望される方は、『実践発表希望 テーマ「……」』と発表テーマも記入して申し込んでください。

宿泊

宿泊予約は事務局で一括行います。

- ①宿泊+情報交換会(夕食)+朝食……14,000円
- ②宿泊+朝食……8,000円
- ③情報交換会のみ……6,500円

アクセス

- JR飯田線・天竜峡駅下車 タクシーで10分
- 中央自動車道・飯田IC～お車で25分・飯田山本IC～20分
※会場は山間地にあり、所在地がわかりにくいと思われます。
ナビゲーターをご用意いただくことをお勧めします。

コラム・自問への窓

自問清掃で学校を立て直す～ 自発性を信じ、心と技を磨く～

元栃木県河内町教育長 五月女勝正

新聞で「荒れた学校」と報道された小学校（児童数 820 名）に新任校長として着任。数回に亘る職員との面接の結果、(1) 教師：自信喪失で意気消沈、(2) 子供：大声で非難するなど心が不安定 (3) PTA：強い不信感、等が判明。さて対策・対応は？教委課長補佐時代に出会った「自問清掃」が心に浮かんだが、独断を慎む。職員 4 名と共に、原秀幸先生の案内で長野県日義小中学校を訪問。自問して動く子供の姿に感動。職員会議で対応策を協議。危機感を持っていた教員達の決意で「自問清掃導入」を決定。子供達に「先生方は自発性を信じるので、今後一切清掃中は、指示・命令をやめる」旨を説明し宣言した。子供に信頼を掛けぬく教師の本気さが子供の心を動かし、教師・子供とも自問する姿が定着。「粘る、気づく、思いやる」心が育ち、校舎からは歌声と笑い声が聞かれ、学校が落ち着き、学力も向上した。職員のチャレンジ精神と気働きに感謝。

(筆者教職歴：中(英)教諭 16 年、市教委 14 年、小校長 7 年、県研修センター 1.5 年、町教育長 9.6 年)

実践者たちの声

橋口有康（石川県野々市町立野々市中学校校長）

自問教育で目指していること

私が自問教育（自問清掃）に出会ったのは、前任校（白山市立光野中学校）でした。平成 19 年文科省指定の道徳教育実践発表があり、ここまで取り組んできたことを今後にどうかすかを考えていたとき、恩師の室峰常弘氏から、「自問教育」を紹介され、「これだ！」と思って今日まで実践してきました。ある生徒が私に送ってくれた主張作文を紹介して、自問教育の良さを実感していただきたいと思います。

『成長するきっかけ』

皆さんは、自分で成長したと実感したことはありますか？私は中学二年の秋ごろまでは、まったくありませんでした。道徳や国語の授業で感想を書くときに、いつも同じ考え方しかできずいつも同じような感想しか書くことができませんでした。そのころの私は、考えてもどうせ同じ文章しか書けないと決めつけていました。でも、そんな私の考え方を変え

るきっかけがありました。それは、自分に自分で問いかけ、他人からの命令を受けずに自分で見つけ、気づく掃除、自問清掃でした。自問清掃が始まったのは、中学校に入って 1 ヶ月ほどたった時ですが、その頃の私は、ただしゃべらずに取り組む掃除としか考えていませんでした。私が真剣に取り組み始めたのは、二年生の秋頃でした。きっかけは、教室の床がすごく汚れていて、誰もやらないなら私がやろうという小さなことでした。やってみるといつもより雑巾が黒くなり、床もきれいになっている気がして、とてもうれしい気持ちになりました。この小さな気づきをきっかけに、自分で考え見つけることの大切さに気づくことができました。以前は自問清掃で成長なんてしないと思っていました。でも、自問清掃に真剣に取り組みだしてから、自分で成長したんじゃないかと思うことが二つありました。一つ目は、同じ様な文章しか書くことができなかった私が自問清掃で考え方を変え、いつもとは違う感想を書

けるようになったことです。二つ目は、好きなことを先にやって、嫌いなことをすべて後回しにしてみました。自分でもがまんしないといけないと分かっていますが、がまんすることができませんでした。でも、自問清掃で、しゃべりたいという気持ちをがまんすることで、今までできなかったがまんをできるようになりました。他人から見れば小さなことかもしれないませんが、私にとってはとても大切なことだと自分自身で感じました。私の成長のきっかけは自問清掃でしたが、他にもたくさんのきっかけがあると思います。ほんの小さなきっかけを皆さんも探してみてもはどうでしょうか？これから大人になっていく中できっと良い道につながっていくと私は思います。

宇野弘恵（旭川市立愛宕東小学校教諭）

清掃で子どもが変わる！

～衝撃！自問清掃に出会う！

リーダー清掃絶好調の最中、私はある1冊の本を手に入ります。平田治先生が書かれた『子どもが輝く「魔法の掃除」』（三五館）です。この本には、掃除を通して内的自発性を育てる「自問清掃」のことが書かれていました。自問清掃とは、15分間一言もしゃべらずに黙って行う掃除のことです。静寂の中での15分間は自分自身との対話の時間であり、毎日静かに自分と向き合っていくうちに、子どもが段々変わっていくというのです。驚くことに、教師は一切「指示しない、注意しない、ほめない」を貫くと書かれていました。「そんなことあるはずがない」と思いました。仕事の指示をしないばかりか、さぼっている子に注意もしない、一生懸命がんばっている子をほめもしない、そんなことで子どもがどう変わるというのか、そんなことをしたら子どもは手を抜いて好き勝手やるに違いない、と思いました。

しかし、次に、**・信じて待つ**
と書かれた言葉を見て、ハンマーで頭を殴られたような衝撃を覚えました。リーダー清掃ではさぼる子はいません。でもそれは、さぼれないシステムだからです。掃除は早いしきれいです。でもそれは、リーダーの指示通りに動いていただけです。リーダーは当番表を見た通りに言っていただけです。そしてそれを私が監視していただけのことでした。

私は子どもを信じて任せていないことに気づきま

した。子どもは、本来意欲や向上心を持っているものだという前提に立たず、だから私が教えなければできないだろうというなんとも傲慢な考えであったことに気づきました。担任不在の時に遊んだりしたら行ったりするのは、子どもたちの内的自主性が育っていなかったからなのだとこの時初めて合点がいました。

自問清掃の魅力は分かりました。すごさも感じ取りました。やってみたいなあとも思いました。しかしすぐに「ようし、自問清掃をやるぞ！」という気持ちにはなれませんでした。なぜなら、「信じて待つ」ことの自信と覚悟が、まだその時の私にはなかったからです。

それから約1年後。平田治先生ご本人からお話を伺う機会に恵まれました。この時の平田先生の一言が、私に自問清掃を実施する覚悟を決めさせることになるのです。（『教育研修 NEXTONE（学級づくり編）』第108号 2011/3/15 発行より転載 <http://archive.mag2.com/0000140894/index.html>）

日吉慎一（千葉県白井第三小学校教諭）

1 自問そうじの取り組み

私はまだ始めて3年あまりです。始めるきっかけは公立図書館で「魔法の掃除」に出会ったことです。読んだ翌月から受け持ちの五年生で始めました。本に書かれてあった通り、子どもたちはたちどころに変化を見せ、私はもちろんのこと子ども自身がその変わりようにビックリしました。それから、ずっと続けています。今は何とか全校に広めようとしていますが、とても難しいことを実感している毎日です。

2 自問そうじ中毒

「やめられないとまらない、かっぱえびせん！」かっぱえびせんを一度口にしたら、手が自然に伸びてしまう。自問そうじも同じく、一度上手く行ってしまったら、中毒のようにやめられなくなる。なぜならば、まず自分自身が気持ちいい。そして、目の前にいる子どもたちも同じように気持ち良さを感じることができるからだ。三十人ほどの集団が同じような思いを毎日共有できる活動なんて、そうそうあるものではない。かっぱえびせん同様、時々味を変えたりもするが、軸となる楽しさは変わらない。私は人生遂げるまで自問そうじを続けるだろう。

高橋俊文（福岡県八女市立岡山小学校教諭）

教師力を高める自問清掃

本校で自問清掃に取り組んでまもなく1年になります。

教師の指示や命令を廃することには勇気が必要でしたが、子どもを変えたいという願いから全校で自問清掃を続けています。掃除中のおしゃべりが完全に無くなったわけではありませんし、子どもたちに自問清掃の可能性を信じさせていないという教師の力不足もあります。自問ノートに散見される子どもたちの「気づき」や「変容」を励みにして今日も自問を続けています。子どもにも個性があって、自問清掃楽しみにしている子もいれば、まだ教師の目を意識して動いている子どももいます。そんな子どもたちの姿に目を凝らしてみると、長い教師生活の中で見逃していた子どもの内発的な行動が見えてきます。私自身も教室の隅っこを雑巾で一生懸命磨きながら、「がまん玉」「みつけ玉」を磨いています。

深沢英雄（兵庫県神戸市立福田小学校教諭）

自問清掃との出会い

自問清掃との出会いは友人から平田先生の著書を教えてもらった時です。クラスで本を見ながら細々と実践を始めました。その時知ったのが、自問清掃の会です。平田先生のお話を聞きたいと長野に行きました。去年は神戸に平田先生にきていただき、講演会を開催しました。同学年の先生も参加してください、学年で自問清掃の取り組みをしました。今年度は全校で少しずつ始めています。平田先生のアドバイスのもと、「低学年は、がまん玉」「中学年は、がまん玉とみつけ玉」「高学年は、がまん玉・みつけ玉・しんせつ玉」をみがくことを中心にしながら進めています。今の悩みは、学年間での温度差です。共通理解をすすめていくかが、課題です。

山岸律子（石川県金沢大学附属中学校教諭）

心を磨く時間に

現任校では自問教育を行っていません。以前、清掃の様子があまりにも悪く、一週間に一度だけ「無言清掃」に取り組んでいたのだが、あまり良くならなかったということでした。現在は清掃指導は各学

級担任に任されています。生徒たちは、割合素直ですが、やはり教師の声かけがないと取りかかりにも時間がかかります。「人と話をしないで自分の心と向き合って掃除の時間を過ごしてみよう」「体調が悪かったらできなくてもいいけど、人に話しかけないで」と言って掃除をするようにしています。中には黙々と自分の持ち場をきれいにし、人の目の届かない場所にも心遣いを見せる生徒もいます。学校で自問清掃に取り組むのは難しいのですが、心を磨く時間にしていきたいと思っています。

西村 浩（長野県松本市立女鳥羽中学校教諭）

本校における自問清掃への取り組み

本年度は学校のグランドデザインの中に「自問」という活動の中心に据えて、8年目の自問清掃がスタートした。

年度当初の職員研修を行ったり、自問集会では全校生徒への自問清掃の取り組み方の確認や自問ノートの書き方の指導、校長講話等で自問への意識の向上を図って進めてきた。

年度当初のざわついた雰囲気から落ち着いた雰囲気へと変わり、日々生徒の自問に対する意識も向上してきている。私自身、毎日自問ノートの見返しや紹介を行っているが、生徒の文面からは取り組みの充実を感じ、一人になって自分と向かい合っている生徒が多くなってきていることが実感できるようになってきた。まだまだ全員がというわけではないが、確実に学校の中核活動になって、位置づいている自問清掃を、さらに深化させていきたいと生徒のみならず職員も願って実践している。

また本年度はさらに自問で培った力を学力の向上へどのようにつなげていけるかを1年間かけて研究していきたいと考えている。



今までの大会（開催年次 テーマ等 会長名 会場）

1992年	第1回	読売教育賞受賞祝う会 自問教育をすすめる会発足	会長竹内隆夫	長野市ホテル信濃路
1993年	第2回	自己に問い自己を確立する子どもたち	〃	〃
1994年	第3回	〃	〃	〃
1995年	第4回	〃	〃	〃
1996年	第5回	自問教育で育つ子どもたち	〃	〃
1997年	第6回	生きる力を育てる自問教育	〃	〃
1998年	第7回	〃	〃	〃
1999年	第8回	自問教育の深まりと拡がり	〃	〃
2000年	第9回	21世紀をめざす自問教育	〃	〃
2001年	第10回	〃	〃	〃
2002年	第11回	〃	〃	〃
2003年	第12回	21世紀を生きる自問教育	〃	〃
2004年	第13回	〃	〃	〃
2005年	第14回	21世紀をめざす自問教育—人間としての誇りを持ち志を立てる	〃	〃
2006年	第15回	〃	〃	〃
2007年	第16回	自問教育で生きる力を育む	〃	松本市本郷公民館
2008年	第17回	自問教育でどんな生きる力が育つのか	〃	東京都若葉台小学校
2009年	第18回	〃	〃	飯田市下久堅小学校
2010年	第19回	“自分を磨こうとする心”を育む指導はどうあればよいか	〃	長野県阿南第一中学校
2011年	第20回	自分の心に問いながら自ら行動する生徒の育成	会長小島信由	長野県竜東中学校

編集後記

- ・ 前会長の竹内隆夫先生が他界され、自問教育をすすめる会と長野県自問教育の会が合併して再出発した「全国自問教育の会」。再出発を期し、会報も発行します。原稿をお寄せいただいた方々に、心からお礼申し上げます。発行に際し、新たに会のロゴと英訳をデザインしました。
- ・ ロゴの中から、「じもん」と浮かび上がってくるのがわかりますでしょうか。制作者は、鎌倉正之理事（長野県自問教育の会前会長 抽象画家）です。「爽やかな春風、又は節電の夏に吹く一陣の涼風のイメージです。肩に力を入れることなく自然体で行けたらいいと思います」と、制作趣旨を語っておられます。
- ・ 自問教育の英訳は、Education of Self-Asking(EOSA)とさせていただきました。これは、齋藤昭先生（教育哲学者 ブーバー研究の世界的権威）の論文より拝借しました。先生は、竹内隆夫先生執筆のリーフレット『新たな発想による清掃活動』（日本教育新聞社刊）のすいせんの言葉として、「私はこの教育こそわが国の民主主義を健全に発展させ、21世紀への人類生存の可能性を拓くものと信ずる」と述べられております。英訳はすなわち、国際社会における自問教育の展開を意識させるものです。
- ・ 自問清掃は、近年全国各地で新しい広がりを見せつつあります。この会報が、各地で自問教育にとり組む方々を結びつける絆となってくれることを願います。講演、情報交換、視察校案内等々、気軽に事務局にE-mailにてご相談ください。
- ・ この会報は、事務局の4名が協力して作成しお届けします。E-mailに添付を原則とし、必要に応じて郵送とします。事務処理の簡便さが長続きのもとだと考えるからです。必要に応じて、プリントアウトとコピーをしてください。それでは、10月に竜東中学校で会いましょう！（文責：平田）